



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Spring 2002(Vol.3, No.2)

第1回「日アセアン対話」開催 「日本とアセアン：アジア太平洋地域の平和と繁栄のための協力」

当フォーラム(GF)は、日・ASEAN 学術交流基金の助成を得て、さる2月20-22日東京の国際文化会館にて、アセアン安全保障国際問題研究所連合(ASEAN ISIS)との共催により、第1回日アセアン対話「日本とアセアン：アジア太平洋地域の平和と繁栄のための協力」を開催した。

アセアン10カ国およびアセアン事務局から計11名のパネリストが参加し、GF会員を中心とする日本側とあわせ、計98名が活発な議論を行った。



開幕夕食会で挨拶する大河原代表世話人

アセアンと中国等との関係

本会議I(議長：伊藤憲一 GF 世話人 人事務局長)では、「アセアンと主要対話国、とくに米国、中国、インドとの関係およびそれが日アセアン関係に及ぼす影響」をテーマに、まずインドネシアのウィルヨノ戦略国際問題研究センター主任研究員から「アセアンと中国との自由貿易地域設置は、今のままでは中国製品のアセアン市場の席巻をもたらすが、アセアンが構造改革により競争力をつけなければ恐れることはない」との基調報告がなされた。

これに対し、谷垣禎一衆議院議員、パスバナサン ASEAN 事務局代表などのコメンテーターおよび会場から、

「アセアン+3の発展は、アセアンがその経済基盤、競争力を強化して、日本や中国の真のパートナーにふさわしい地位を築くことができるかどうかにかかっている」「日中がいかに協調するかも鍵だ」等の意見が出された。

アセアン内格差解消に向けて

本会議II(議長：クスマ・タイ安全保障国際問題研究所評議会議長)では「アセアン内の格差解消に向けての日アセアン協力」をテーマに、冒頭大田博 GF 世話人から「アセアン内格差の解消はアセアンの経済統合に不可欠だ。日本はかねてアセアン後発参加4カ国を支援して来たが、今後もアセアン内格差解消を重視すべきだ」との基調報告がなされた。

これに対し、カンボディア平和協力研究所代表のノロドム・シリヴッド殿下、廣野良吉帝京大学教授などのコメンテーターおよび会場から「アセアン内格差の解消には、インフラ整備、メコン河流域の開発などもあるが、人的資源の開発が最も重要だ」「まず政治的な安定、次に対外的な開放、それからメコン河流域開発のような地域的アプローチという順序ではないか」等の議論が出された。

社会的文化的関係の強化

本会議III(議長：ホセ・フィリピン戦略開発問題研究所顧問)では「日アセアン間の社会的文化的関係の強化」をテーマに、マレーシアのレオン戦略国際問題研究所副所長から「日本とアセアンの社会的、文化的関係の強化には、青少年、大学関係者、政治家など



本会議で司会する伊藤事務局長(中央)

幅広い各界、各層の人びとの間の交流を促進することが一番効果的である。交流事業を促進し、監視する機関をつくり、十分な資金を確保せよ」との基調報告がなされた。

これに対し、ベトナムのハイ国際関係研究所次長、青木保政策研究大学院大学教授などのコメンテーターおよび会場から「日本とアセアンの継続的交流を確保するため、日アセアン社会文化評議会を設置してはどうか」「その場合、たとえ少額でもアセアン側もその資金を分担をすることが重要だ」等の意見が出された。

最終日22日の本会議IV(共同議長：リム・シンガポール国際問題研究所部長、太田博 GF 世話人)では、28名の限定出席者による「総括自由討論」が行われ、「アセアン+3の発展のためには、日本とアセアンの連帯が重要だ。また、東アジアの安全保障を考えると、米国のプレゼンスも欠かせない」「9月11日事件以降、多くのイスラム国家が、反テロ戦争における米国との協力と国内事情との間でジレンマに立たされている」等の指摘がなされた。



活発な議論を交わす出席者たち

世話人会開催

さる1月16日、大河原良雄、豊田章一郎、茂木友三郎、浜田卓二郎、鳩山由紀夫、島田晴雄、伊藤憲一、太田博



年次総会開催

さる1月29日、当フォーラムの第16回年次総会が開催され、浜田卓二郎、太田博、伊藤憲一各世話人、伊藤英成、中川正春、広中和歌子、増原義剛、小此木政夫、坂本正弘、高島肇久、松本健一、三好正也各メンバーなど30名が出席した。

冒頭、世話人会(上欄)の審議結果が報告され、ついでゲストのジェラルド・カーティス米コロンビア大学教授より日米両国の政治状況について語ってもらった。

同教授は「9月11日以降、アメリカ

の8世話人が出席して、第12回世話人会(写真)が開催された。

まず2月に日アセアン対話、5月に日中対話、9月に日豪対話、11月に日韓対話を実施することを骨子とする2002年度活動計画案が審議され、承認された。つづいて、補佐人会(右欄)より2001年度収支決算監査報告書が提出され、承認された。2002年度収支予算案については、当年度2,041,310円の赤字予算となるが、年度末繰越金としては54,977,918円を維持する旨説明され、承認された。

は変わった。建国以来はじめて本土防衛が最優先課題となった。外国との関係も、本土防衛にどう貢献するかが物差した。他方、日本では官僚が国民の尊敬や信頼を失い、政権は戦略を欠き、戦略家がない。日本の改革は難しい」と語り、夜遅くまで質疑に応じた。



カーティス教授(中央)を囲んで

補佐人会開催

昨年12月19日に、第8回補佐人会が開催された。豊田章一郎、茂木友三郎各経済人世話人によって指名された笠間正治トヨタ自動車企画室長、清水和生キッコーマン社長室副参事各補佐人によって、当フォーラムの2001年度収支決算案(収支差額532,095円の赤字)に対する監査が行なわれた。机の上に積まれた証拠書類等を精査したあと、両補佐人より「決算の数字は適正である」との判断が示された。

国際政経懇話会

当フォーラムは、日本国際フォーラム、日本予防外交センターとの共催で、さる2月6日、月例の「国際政経懇話会」を開催した。

講師の林貞行前駐英大使から、「最近の英国事情」と題して、「イギリスに学べ」という視点でサッチャー改革の光と影等についてお話し頂いた。

フォーラム活動日誌(12-2月)

- 12月13日第139回国際政経懇話会(岡崎久彦岡崎研究所長他27名)
- 12月17日来日した Wolfgang Michalski OECD 事務総長顧問、伊藤世話人事務局長を来訪
- 12月19日第8回補佐人会
- 1月16日第12回世話人会
- 1月29日第16回総会および Gerald Curtis 教授を囲む夕べ
- 2月6日第140回国際政経懇話会(林貞行前駐英大使他21名)
- 2月13日伊藤事務局長、来日した Ion Iliescu ルーマニア大統領と会見
- 2月20日「日アセアン対話/日本とアセアン:アジア太平洋地域の平和と繁栄のための協力」開幕夕食会(大河原良雄代表世話人主催)
- 2月21日同上「日アセアン対話」本会議 I・II・III (Kusuma Snitwongse タイ ISIS 評議会議長他98名)、公式レセプション(杉浦正健副大臣主催)
- 2月22日同上「日アセアン対話」本会議IV (Lim Hank SIIA 部長他29名)、閉幕昼食会(伊藤憲一世話人事務局長主催)

事務局便り

アセアン諸国との対話(1頁)は初の試みでしたが、相手側が10カ国にのぼり、しかもそのまとめ役がないため、事務局は相手側事務局の仕事もこなさねばならず、二国間対話と比べると準備作業は大変でした。しかし、それだけに成功したあとの喜びもまたひとしおです。

■新規入会メンバーの紹介

(12-2月分)

[政界人メンバー]

赤羽 一嘉 衆議院議員

[有識者メンバー]

畑 恵 作新学院副院長

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の17社25口です。ここに特記して謝意を表します。

[経済人世話人所属企業] [5口]

トヨタ自動車 キッコーマン

[経済人メンバー所属企業] [1口]

住友電気工業 鹿島建設 新日本製鐵 東京電力 三井住友銀行 富士通 第一勧業銀行 旭硝子 東京三菱銀行 日本電信電話 東京海上火災保険 富士ゼロックス ビル代行 日本原子力発電 松下電器産業

(入会日付順)



グローバル・フォーラム会報
2002年春季号
(第3巻 第2号 通巻第10号)

発行日 2002年4月1日
発行人 伊藤 憲 一
編集人 渡 辺 蘭

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2190 [E-mail] jfir@mars.dti.ne.jp
[Fax] 03-3589-5120 [URL] http://www.gfj.gr.jp/